

(様式1)

[年度] 平成30年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] エンドウの新品種育成

[担当機関名] 農業試験場暖地園芸センター育種部

[連絡先] 0738-23-4005

[専門分野] 野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

本県の実エンドウは、出荷量が全国1位の品目であり、日高地域を中心に産地が形成されています。しかし、主要品種である‘きしゅううすい’は、ハウス栽培での草丈が高く、誘引や収穫などの作業性が悪いことが課題となっています。そこで、節間が短く草丈の低い実エンドウ品種の育成に取り組みました。

[研究の成果]

1. 短節間実エンドウ新品種‘みなべ短節間1号’を育成しました。
2. ‘みなべ短節間1号’は、平成27年にみなべ町の‘きしゅううすい’栽培ほ場の中で発見された変異個体から育成された品種です。
3. 主枝長、節間長が‘きしゅううすい’の約75%と短く、草丈が低いです(表1、図1)。
4. 初花房節位が‘きしゅううすい’よりもやや高く、開花開始時期、収穫開始時期がやや遅くなります(表2)。
5. ハウス栽培での収量は、‘きしゅううすい’に比べると、初期に少なく、後半に多くなる傾向があります(図2)。
6. ‘きしゅううすい’と比べて、莢や青実の外観(色や形)は同等、大きさは同等かやや小さいです(図3、表3)。

表1 ‘みなべ短節間1号’の主枝長と節間長

品種	主枝長 <sup>z</sup> (cm)	節間長 <sup>x</sup> (cm)
みなべ短節間1号	368 (72) <sup>y</sup>	8.3 (73)
きしゅううすい	514 (100)	11.4 (100)

注) 播種日: 2017年9月20日。開花促進処理なし。

<sup>z</sup>2018年3月26日に測定。<sup>y</sup>‘きしゅううすい’対比(%)。

<sup>x</sup>初花房上下5節間の平均節間長。



図1 ‘みなべ短節間1号’の草姿  
左: ‘みなべ短節間1号’  
右: ‘きしゅううすい’

表2 ‘みなべ短節間1号’の初花房節位と開花、収穫開始日

品種	初花房 <sup>z</sup> 節位 (節)	開花 <sup>y</sup> 開始日 (月/日)	収穫 <sup>x</sup> 開始日 (月/日)
みなべ短節間1号	28.3	11/28	2/15
きしゅうすい	27.9	11/23	2/3

注) 播種日: 2017年9月20日。開花促進処理なし。

<sup>z</sup>最初の花房が発生した節位。 <sup>y</sup>初めて開花が認められた日。

<sup>x</sup>初めて莢を収穫した日。

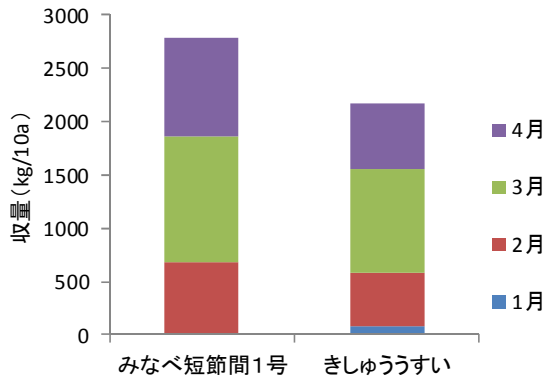


図2 ‘みなべ短節間1号’の時期別収量

注) 播種日: 2017年9月20日。開花促進処理なし。  
調査期間: 収穫開始~2018年4月30日



図3 ‘みなべ短節間1号’の莢

左: ‘きしゅうすい’  
右: ‘みなべ短節間1号’

表3 ‘みなべ短節間1号’の莢および青実の特性

品種	莢特性				青実特性	
	莢長 (cm)	一莢重 (g)	一莢青実重 (g)	歩留まり <sup>z</sup> (%)	粒径 (mm)	100粒重 (g)
みなべ短節間1号	9.8	12.5	4.8	38.2	11.4	68.9
きしゅうすい	10.0	13.4	5.2	39.0	11.9	70.3

注) 播種日: 2016年9月20日。実入り4粒以上かつ2粒以上の欠粒のない莢の莢・青実を調査対象とした。

<sup>z</sup>一莢青実重/一莢重×100。

#### [成果のポイントと活用]

1. ‘みなべ短節間1号’は、発見ほ場の大野光男氏により平成30年12月に品種登録出願され、平成31年3月14日に出願公表(出願番号: 第33561号)となりました。
2. 今後、‘みなべ短節間1号’の県内産地導入に向けて、関係機関と協力し、栽培技術の確立や栽培用種子の準備を進めていきます。

#### [その他]

予算区分: 県単(農林水産業競争力アップ技術開発事業)

研究期間: 平成28~30年

研究担当者: 田中寿弥、小谷泰之

発表論文等: なし

ホームページ掲載の可否: 可